

第3回母子健康手帳等に関する意見を聴く会 議事概要

1. 日時

令和3年10月19日（火）13時00分～15時00分

2. 場所

厚生労働省子ども家庭局小会議室（オンライン）

3. 出席者

磯野 真穂（人類学者、専門領域：文化人類学、医療人類学）

杉下 智彦（東京女子医科大学 国際環境・熱帯医学講座）

天童 睦子（宮城学院女子大学 一般教育部）

中西 和代（株式会社風讃社 たまごクラブ編集部）

中山まき子（同志社女子大学 現代社会学部）

（敬称略 50音順）

※第2回以前及び第4回以降の出席予定者がオブザーバーとして参加

4. 進行内容

- （1）事務局から資料に沿って説明
- （2）出席者より資料に沿って説明
- （3）意見交換

出席者及びオブザーバーからの主な意見は以下の通り。

1) 母子健康手帳の内容について

○母子健康手帳に記載の発育曲線について、平均値を示すことにより過剰に不安になる人がいるのではないか、という質問に対し、下記の意見があった。

- ・発育曲線は、これまでの科学的視点から、目安となる標準体重を健康情報の一つとして提供してきたものと理解している。
- ・成長曲線によって安心している人も多いと思う。不安になる人がいるからすぐ取るのではなく、十分な議論が必要ではないか。
- ・ケニアでは、低出生体重児やH I Vで栄養不良の子どもが問題になる。早期発見早期治療に繋げるため、体重曲線を載せることに反対する人はあまりいない。未熟児や低出生体重児への配慮まではできていない。
- ・基準があることで、過剰に心配になってしまう親もいるのではないか。低栄養時代で、本当に食べ物が手に入らないような場合ではないので、この意味について考える必要が

ある。

- 大学生からは、平均を求められる記録は良くない、イラストなどが母子ばかりで父や他の人が不在のことが多い、結婚年齢について書く必要があるか疑問、母乳・人工乳のメリットデメリットは母乳ではないとダメだという圧を感じるので、両方書いて欲しい、任意様式はQRコードを書けば良い、健康保険証を差し込めるなどの工夫が欲しいという意見があった。また、産後の女性に対する記載欄が歯と体重のみで少なすぎる、という意見もあり、こちらについては同意見で、「歯の健康と、短い期間の体重」以外にも「母親／親の健康関連項目」を設けて欲しいと考えている。
- 新しい観点だが、リプロダクティブテクノロジーを使った第三者提供などについてどう盛り込むか考えていく必要がある。
- 子育ての困難、児童虐待をどうサポートシステムとして入れていくかというのも考えていく必要がある。相談できる体制等について母子健康手帳別冊等など検討し、インフォメーションとして入れてほしい。

2) 母子健康手帳の電子化について

- ケニアの妊産婦が電子母子手帳を使いこなしている要因、日本の妊産婦に電子母子健康手帳が広がる可能性についてどう考えるか、という質問に対し、下記の回答があった。
 - ケニアでは、弱者であればあるほど、銀行の開設ができないなどサービスにアクセスしづらく権利の保護ができない状況。電子母子健康手帳は、情報格差や経済格差を小さくする役割を果たしており、電子化のモチベーションが全然違う。日本での女子学生を対象とした研究では、母子健康手帳の電子化への要望が強かった。これから母親になる若い世代にヒットする手帳とならないと使ってもらえないのではないかと。
 - 単にデジタル化はデータだけでなく、究極、母が自分たちでいろんな自己決定ができる、その知識や経験の共有、そして、自分自身の健康を自分自身で守っていくという電子化の意味がある。
 - 個人情報へのアクセスというのはアフリカでも非常に保護されている印象があり重要な観点である。
 - デジタル化の一番の利点というのは、fast、そして、fair、funである。タイムリーな情報をいか意思決定、格差是正につかうか、そして楽しいという要素、この3つがなければ絶対進まない。
 - アフリカでは、電子化が現金給付等に使用されており、それが普及のインセンティブとなっている。
- ケニアの電子母子健康手帳について、クラウド上にデータが行くのか、それともデバイス上に残すのが基本か、という質問に対し、下記の回答があった。

- ・当初はサーバを設置しそこにデータを置いていたが、セキュリティ上の問題により汎用のクラウドに変わった。各個人が認証番号を持ち、様々なデータにアクセスできている。

3) 母子健康手帳の名称について

- 母子健康手帳の名称を、父母で子育てすることを強調するために親子手帳に変えることは、母子の健康をセットにすることで致死率を下げた歴史を踏まえると、本来持っていた手帳の力が薄れてしまうのではないかと、という質問に対し、下記の意見があった。
- ・前回の母子健康手帳に関する検討会では、母子保健の管理やニーズの観点から「母子」の文言を残したと思う。絆は大事だが、誰のための、何のための手帳であるかが重要で、母子の保健・健康・権利が重点化されるのであれば、名称として明示化すべき。
- ・アフリカでも名称について議論がある。現在は「マザー&チャイルド」だが、養子が普通にあり、男性1人に4人まで妻がいて、女系社会という家族形態が普通。高齢者も含めた拡大家族の一部としての母と子の手帳という言い方をしないと、現状にそぐわない。
- ・たまごクラブで実施したアンケートでは、親子手帳がいいという意見は多くはなかった。また、父親のツイート「何で母子健康手帳なの？父親は要らないの？」に対し、「母の健康についての手帳だから父親がいないのは当然」という意見が想像以上に多かった。医療的に母親の健康を守る役割と心の絆の役割を分け、名称を変えることも検討できるとよい。
- ・「親」という言葉は素敵な言葉だと思う。どういう状態でも「親」になれるが、「母」は限定されてしまう。手帳の記載項目について、母の記載欄を増やすか親という形で書く項目を入れるかを、当事者側で考えていくことが重要。
- ・ジェンダーパースペクティブ、子育ては母親だけの役割ではないという観点から、やはり親子手帳が良い。
- ・大学生からは繋がり手帳という案が出た。

4) 母子健康手帳の満足度について

- たまごクラブで実施した母子健康手帳に関するアンケート結果について、何をもって満足としたか、回答者は読者層か、という質問に対し、下記の回答があった。
- ・「あなたにとって母子健康手帳の満足度は」という聞き方をしており、どちらかという満足、というニュアンスであると認識している。また、公式アプリからのアンケートであり、回答者は雑誌を購入している読者層のみではない。

5) その他

- ・女性の痩せの問題について、人は社会的にきちんとした「何か」として認められるためなら進んで健康を犠牲にしていくところがあり、健康に悪いからという情報を与え続け

でも全く痩せたい女性には響かないだろう。

- SNSですぐに入手できる情報は、見れば見るほど不安になる、情報の入手においては役立つときと惑わされるとき、この二面性が常にあるので、誰のための何のための育児知識と育児情報なのか、信頼できる知識や情報というのは、どんな伝達媒体であれ、吟味して提供する必要がある。
- 現代のペアレントクラシー時代の育児は、ともすれば親の責務を過度に強調し、家族の責任だというふうになり自己責任化の文脈へと親たちを追い込むリスクがある。子どもをみんなで、地域で、社会で育てるという社会的・文化的基盤の充実とネットワークの生成、それには国・行政の役割が極めて大きい。